



## 橋本 功議員

### 学校施設における避難所としての環境整備は

橋本議員

学校施設は、児童生徒の学習の場であるとともに、災害時は地域住民の応急避難所として役割を果たすことから安全性、防災機能の確保は重要である。

文科省は児童生徒の熱中症対策として空調設備（エアコン設置）を推進しているが、現状では整備されていない。体育館の空調設備、学校における熱中症対策や災害時の指定避難所として機能強化など、空調設備への必要性は。

### 空調設備の早期設置を目指す

教育長

熊本地震から8年経とうとしているが、その後も空調施設は未整備のままに至っている。体育館へのエアコン設置は、熱中症対策としても重要な施策であり、災害発生時の防災機能強化は文科省において空調・冷房設備を進めるよう要請を受けている。

避難所の役割も担う体育館の空調設備は、国の補助率2分の1であるが、事業費、ランニングコスト等も検討し早期設置を目指していきたい。

村長

教育長の答弁どおり、教育環境、避難所の環境は改善していかなければならない。ある程度費用の負担は確保して整備していく。



熊本地震時の避難所の様子

### 南阿蘇村地域整備計画残事業は

橋本議員

昭和58年度に立野ダム建設事業着手から41年の長い年月を経て2月17日に完成式が行われた。ダムの名も立野ダムから阿蘇立野ダムに変更して阿蘇の知名度を生かすことができた。旧長陽村から継続している地域整備計画残事業は、多目的記念館、ダム駅、スポーツ広場、その他にも自然探索歩道、ダム周辺植樹、栃木地区公園整備は平成31年度から取り組まれている。村長は2020年度までに基本計画を策定し、整備計画を定めると述べているが、3つの残事業

- ①南阿蘇鉄道ダム駅の設置
- ②多目的記念館の設置
- ③スポーツ広場の整備 以上の計画は。

### 新駅設置は不透明

村長

3事業のなかで、多目的記念館建設の実施設計とスポーツ広場の基本設計を業者に委託している。令和7年度までには、拠点施設の横に遊具広場などを整備したいと考えている。

立野ダム駅は、高森町及び南阿蘇鉄道に対し、要望、協議を重ねてきたが、利用者動向等、運輸収入の見通しが必要で、新駅建設は不透明になっている。このため、新駅の設置には至っていないので、引き続き協議を行っていく。



阿蘇立野ダム仮設ヤードの整備イメージ